スポーツ産業新報

THE SPORTS INDUSTRY NEWS　昭和23年4月10日　第3種郵便物認可　毎月1・10・20日発行

発行所
株式会社日本運動具新報社
東京本社／〒111-0053 東京都台東区浅草橋5－8－6 東京スポーツ会館
電話 (03)3861-6728(代表)
FAX (03)3861-6730
E-mail:shinpou@fine.ocn.ne.jp
大阪支局／〒594-0041 和泉市いぶき野3－2－9－301
電話・FAX(0725)90-6660
発行人／野口 巌天　購読料／1ヶ年21,000円
振替口座／東京5－25923番　(本体価格20,000円)

HAT&CAP
オールカップハット株式会社
本社 〒130-0011 東京都墨田区石原3丁目31番5号
TEL.03-3624-1461(大代表) FAX.03-3626-2301(代表)
URL.http://www.n-hat.co.jp e-mail info@n-hat.co.jp

新学期機に"希望の光"を

GSA「スポーツ・リカバリー・プログラム」

未曾有の東日本大震災から1カ月が経過した。被災地復興へ向けて確実に1歩動き出してはいるが、被災者は未だ過酷な避難生活を強いられているのが現実だ。そうした中で子どもたちは新学期を迎える。すべての物が不足しているが、健全な精神と肉体を育成するためのスポーツ用品も例外ではない。スポーツを通じて環境教育に取り組むNPO法人グローバル・スポーツ・アライアンス（GSA、三浦雄一郎理事長）は、スポーツを通じて心のケアを目指す「スポーツ・リカバリー・プログラム（SRP）」を開始。15日、岩手県大船渡市教育委員会にスポーツ用品を送った。運動・スポーツは、子どもたちのストレスを発散する上でも非常に重要。そして何より、子どもたちの元気な姿や笑い声が"希望の光"になる。

大船渡市教委に スポーツ用品発送

児童の生活環境をサポート

GSAは、様々な分野で多くのGSAナビゲーター（活動協力メンバー）を組織している。そのナビゲーターの一人、鵜浦真紗子さんは大震災当日、気仙沼市で被災し、九死に一生を得て奇跡的に大船渡の実家にたどり着いた。その後、自宅を「大船渡サポートネットワークセンター」事務所として立ち上げ、地元ボランティア、海外ボランティア団体とともに、被災者救援活動を開始した。

鵜浦さんから連絡を受けたGSAの岡田直子副理事長は当初、「個人的な支援として大船渡に入った」というが、現実を目の当たりにして早速GSAとしての活動を決定。支援物資を受け付けてくれる岩手県立福祉の里センターを訪れ、戸羽所長を交えて支援活動を行うことを確認した。

翌日には、戸田公明大船渡市長および大船渡教育委員会の今野洋二教育長と面談。この場で、「大船渡市24小・中学校のうち、3校が全壊、2校が半壊し、多くのスポーツ用品が流され児童たちが悲しんでいること、スポーツ用品の必要性を伺った」（岡田副理事長）ことが、今回のSRP開始につながった。

SRPは、GSAの活動の一環である自然災害や環境破壊によってスポーツができる環境を失った子どもたちへスポーツを通じて心のケアを目指す、というもの。戸田大船渡市長および今野教育長との協議の上、今回は被災した児童たちの心のケアを考え身近にスポーツ用品がある環境をいち早く取り戻すため、スポーツ用品を避難所になっている施設や児童が増加した学校へ送ることに合意した。

「ストレスが溜まる避難所生活の中で、ボール1個あるのと無いのとでは随分違う。そして新学期が始まった時に、運動・スポーツ用品があれば、不自由な学校生活も少しは楽しくなるのでは」（岡田副理事長）との想いが強い。

子どもたちへ送ったスポーツ用品はGSAのネットワークによって集められた。三浦雄一郎GSA理事長をはじめ、GSAナビゲーターには岡田武史氏（元サッカー日本代表監督）や朝日健太郎氏（ビーチバレーボール選手）、TUBEの前田亘輝氏など著名人も多く、各人の声掛けによってスポーツシューズやボール、野球用品など短期間で多くのスポーツ用品が集まった。

中には、高校の野球部からメッセージが書かれた段ボールで野球用品が届くなど、多くの善意が集まっている。一方でGSAには支援金も寄せられており、こうした資金で不足している用品類（中古品は修理も必要）を購入し現地へ届けている。

大船渡市では野球、サッカー、バレーボール、バドミントン、軟式テニスが盛んなことから、これら種目に関係する用具を早急にまとめ、始業式（4月20日予定）に間に合うよう4月15日に第一便を大船渡教育委員会に送った。

今後の活動に関しては、「継続することが大事。ただし、何でもやみくもに送るのではなく、教育委員会からどんな用品が必要なのかを聞き、ニーズに沿って迅速に動きたい」（岡田副理事長）考え。国際的支援機関や地元ボランティア団体との連携も強化し、サポートする。また、環境が整った時点でGSAナビゲーターなどの協力を得て、被災地で元気を与えられるスポーツイベントを開催することも検討していく。

岡田副理事長は、「今回送ったスポーツ用品では大船渡市の全児童に行き渡らないが、継続して支援し続けることが大切だと思う。今後、仮設住宅が増えると思うが、生活が多少落ち着けば運動・スポーツの役割はますます高まる。バドミントンやバレーボールのネット、ゲートボール用品などが求められる時がくるかもしれないし、そうしたスポーツを楽しめる環境、気持ちに早くなっていただきたい」と話した。

なお、GSAに届いたスポーツ用品以外の支援物資は、岩手県立福祉の里センターと連携して搬入し、被災者支援に役立てる。

問い合わせは、GSA（☎03－5432－0200、FAX03－5432－0201）、www.gsa-world.org

高校の野球部からはメッセージ入りで物資が届く（後方）

台湾から支援増大

台湾からの支援物資

台湾外交部によると13日現在、東日本大震災の義援金が台湾全体（官民合計）で47億4229万台湾ドル（約137億円）集まっている。

義援金137億円へ

人的・物的支援も続々

台湾では大震災発生後、テレビ各局が合同でチャリティー番組を生放送し、馬英九総統をはじめ多くの芸能人が参加して義援金を呼びかけるなど、支援の輪が広がっている。こうした模様は、日本と台湾の親密さを表しているとして、日本でも大きく取り上げられている。

また義援金以外にも、人的支援として台湾各地の消防士で構成される台湾救援隊（28人）が派遣され、その他、台湾NGOが被災地で救援物資提供などの活動をおこなっている。

さらに物的支援としては、総量約400トンの支援物資が提供された。品目は発電機、毛布、寝袋、防寒着、食品など幅広い。台湾外交部が官民から集荷した支援物資を駐日台北経済文化代表事務所が順次、被災地に届けている。

なお、台湾貿易センターには大震災後、復旧支援に対する資材調達を目的にした建材・金属部品・発電機などの問い合わせがあり、そうした情報提供や商談手配も行っている。

ニューパワー®